

企画展

# ほとけの姿を読み解く

- 会場 松平家史料展示室
- 会期 令和6年9月6日(金)  
~10月14日(月・祝)

## 仏教の開祖・釈迦しゃかの姿

釈迦(ゴータマ・シッダッタ)が悟りを開き、仏教教団が成立した紀元前5世紀以降、ほとけの姿を造形化することはしばらくありませんでしたが、紀元1世紀後半に東西文化の交流地として栄えたガンダーラ(現パキスタン)とインドのマトゥラーで仏像が出現し、それ以降、修行者の目指すべき姿であり、礼拝の対象でもある釈迦如来像が数多く作られるようになりました。

右写真の出山釈迦しゅつさんしゃか図は、山林での長い苦行を経ても解脱を得ることができず、苦行が正しい悟りへの道ではないことを知って山を出る釈迦の姿を表しています。こけた頬に無精ひげを生やす顔、痩せて肋骨の浮き出た胸や丸まった背中など、厳しい山中での苦行を物語る表現が見られる一方、眼差しははっきりと鋭く描かれ、頭からは放光しており、大悟への歩みが確かなものであることを示しています。

下写真は釈迦如来とその十大弟子のうちの迦葉かしょうと阿難あなんを描いたもの。釈迦から以心伝心で法を伝えられたという「拈華微笑」の故事で有名な迦葉(右)と、その迦葉から法を嗣いだ阿難(左)を左右に描いており、両者の老壯の対比も見どころです。

いずれも禅宗で好んで絵画化されてきた題材であり、写真の仏画は福井藩のお抱え絵師・狩野元昭が描き、福井藩主松平家菩提所である大安禅寺に寄進されました。



出山釈迦図 狩野元昭筆  
大安禅寺蔵 当館保管



釈迦・迦葉・阿難図 狩野元昭筆 大安禅寺蔵 当館保管

# 日本における阿弥陀如来の姿

ほとけの姿で注目すべき点の一つに印相<sup>いんそう</sup>があります。印相はほとけの願いやはたらきを手のジェスチャーで表したものです。ここでは一例として、日本で盛んに信仰されてきた阿弥陀如来の印相に注目してみましょう。

日本の仏画や仏像に見られる阿弥陀如来の印相には、「転法輪印」<sup>てんぽうりん</sup>「禅定印」<sup>ぜんじょういん</sup>「来迎印」<sup>らいごういん</sup>の3つがあります。

「転法輪印（説法印）」<sup>せっぽういん</sup>は奈良時代に制作された奈良・當麻寺の当麻曼荼羅<sup>たうままんたら</sup>（観経变相図）の中尊に見られる印相で、極楽世界<sup>ごくらくせかい</sup>で説法をしている様子とされています。この当麻曼荼羅は、唐で浄土教を大成した善導<sup>ぜんどう</sup>の『観無量寿経疏』<sup>かんむりょうじゆきょうしよ</sup>に基づき描かれており、表現される極楽世界の様子や九品往生（来迎）<sup>くほんおうじやう</sup>図などは、後世の阿弥陀像の制作に大きな影響を与えました。

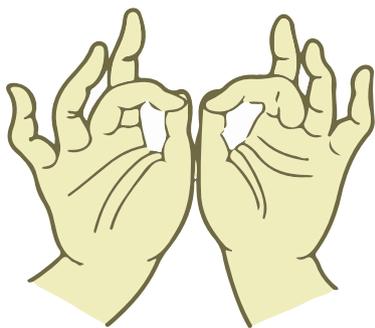
一方「禅定印（弥陀定印）」<sup>ぜんじやういん</sup>の阿弥陀如来像は平安時代から隆盛した密教の曼荼羅<sup>まんたら</sup>に表される姿で、京都・平等院鳳凰堂をはじめ、阿弥陀堂の本尊としてよく造像されました。

また「来迎印」は、人間の臨終の際に来迎する阿弥陀如来の姿を表したもので、末法思想から極楽往生信仰が高まっていく平安後期以降、盛んに仏像や仏画として表現されていきます。現在でも仏壇の本尊として来迎印の阿弥陀如来像が多く見られるように、最も親しまれている姿ではないでしょうか。

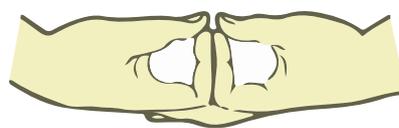
さて、右写真の福井市安養寺<sup>あんようじ</sup>の阿弥陀二十五菩薩来迎図は、阿弥陀如来が多くの菩薩を引き連れて、臨終者のもとに来迎する様子が描かれています。このような来迎を表現する場合、阿弥陀如来は来迎印を示すことが多い中、この来迎図では転法輪印を表しており、当麻曼荼羅との関連が注目される作例となっています。



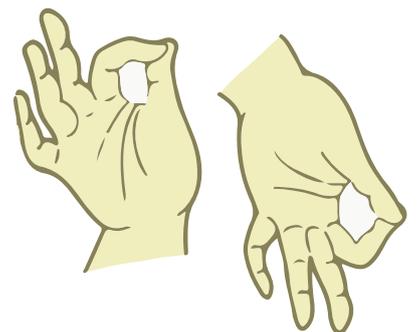
阿弥陀二十五菩薩来迎図 安養寺蔵 当館保管  
展示期間：9/6～10/5



転法輪印（説法印）



禅定印（弥陀定印）



来迎印

## 日本の阿弥陀如来像の印相

## チベットにおける阿弥陀如来の姿

チベットでは中国だけでなく、仏教発祥の地であるインドからも直接仏教（日本には伝わらなかった後期密教含む）が伝来し、独自の仏教美術が開花しました。

チベットにおいても阿弥陀如来は重要な仏として信仰されており、密教の曼荼羅で阿弥陀如来を象徴する色である赤色の袈裟を着る姿（左下写真）や、身色が赤く表現される姿（右写真）を見ることができます。印相は日本と少し異なり、禅定印を組む手に鉄鉢てっぽつを載せています。

ところで阿弥陀如来の「阿弥陀」はサンスクリット語の「アマタ」を音写したもので、その語源は「アマターバ」＝「無量光（無量の光を発するもの）」と「アマターユス」＝「無量寿（無量の寿命をもつもの）」の2つがあります。日本では無量光仏と無量寿仏はどちらも阿弥陀如来の異名とされますが、チベットでは無量寿仏は極楽世界の教主であり、無量寿仏はその化身の一つと考えられているようです。無量寿仏は菩薩形で冠や装飾品を身に着け、禅定印を組んだ手には不死を与える甘露水「アマリタ」の入った瓶を持つ姿で描かれます（右下写真）。アマリタに象徴されるように、無量寿仏は、不老長寿を司る仏として厚く信仰されています。



阿弥陀如来像 当館蔵



極楽浄土図 当館蔵



無量寿仏像 当館蔵

# チベットにおける十一面観音の姿

日本においても奈良時代から篤く信仰されている十一面観音ですが、チベットでもその信仰は盛んです。写真のチベットの十一面観音は、中央に大きくラクシュミー流の十一面観音を描いています。この図像は、ラクシュミーという尼僧が著した「十一面聖観自在尊成就法」<sup>じゅういちめんしょうくわんじざいそんじょうじゆほう</sup>を典拠とし、その姿は本面の左右に2面、その上に3面・3面の菩薩面を配し、その上に羅刹面<sup>らせつめん</sup>、最上段に阿弥陀如来の仏頂面<sup>ぶつちようめん</sup>を配しています。また主要な二手は合掌して宝珠を持ち、右の脇手は念珠、法輪、与願印、左の脇手は蓮華、弓矢、水瓶を持つ十一面八臂像です。周囲は、上部中央に阿弥陀如来、左右に白色と緑色のターラー菩薩、下部は中央に無量寿仏、左に一切智毘盧遮那仏<sup>いっさいちびるしゃなぶつ</sup>、右に阿閼如来を配しています。



参考：デルゲ版十一面観音像



十一面観音像 当館蔵

## 次回企画展予告

秋季特別展

**鉄の名工 越前明珍**

10/19(土)~12/1(日)

松平家史料展示室 企画展

**城下町福井と九十九橋**

10/19(土)~12/8(日)

展示解説シートNo.171 令和6年9月6日発行

**福井市立郷土歴史博物館**

福井市宝永3-12-1 電話 0776-21-0489

担当：藤川明宏

印刷：宮本印刷株式会社

O u;\U0 0{0h0Q0nY 0 >0 ³000 Qœ\Uv 2

No.	c [	T y	T/Ep	fBN <sup>a</sup>	b@5	P
1		N˘ - 0<0 0 0 0Øw N˘	1OS	2N }	_S ( 5	
2		afN˘ V ‡ P˘	1OS	[/u:fBN <sup>a</sup> 1 5 }	_S ( 5	y N ^ b@ 7u:QœV
3	w	Qœ\q ˘ 边V rØ ˘QCf- {F	†E	_b8fBN <sup>a</sup> 1 5 }	Y[ y [œ 5 _S (O {i	
4	w	˘ 边0β 边 10β ? <sup>a</sup> V rØ ˘QCf- {F	3E	_b8fBN <sup>a</sup> 1 5 }	Y[ y [œ 5 _S (O {i	
5	w	TxLV rØ ˘QCf- {F	†E	_b8fBN <sup>a</sup> 1 5 }	Y[ y [œ 5 _S (O {i	
6	˘ e	o" V	2E	P fBN <sup>a</sup> 1 0 1 5 }	Y[ y [œ 5 _S (O {i	9/15~101 4Uy:
7	˘ e	?_% @N SAN ˘ge ˘ V	†@	P fBN <sup>a</sup> 1 5 }	[ [œ 5 _S (O {i	9/ 10 105Uy:
8	˘ e	W0 5 ˘ge ˘ V	†E	P fBN <sup>a</sup> 1 5 }	"mw[œ 5 _S (O {i	9/ 10 105Uy:
9		W0 5 ˘ge ˘ V	†E	[/u:fBN <sup>a</sup> 1 0 1 5 }	RMu:0βg—[œ	106~101 4Uy:
10		e„O¿  «\ P˘	†E	_b8fBN <sup>a</sup> 1 5 }	_S ( 5	X 0 [fiu:SAQme e 5 9/ 10 9/10 106~101 4Uy:
11		V_‡Y*[P0βN P P˘	2E	_b8fBN <sup>a</sup> 1 5 }	_S ( 5	SW O <sup>a</sup> u: SX4e 5 9/ 10 9/10 106~101 4Uy:
12		?_% @Y gE˘	g	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
13		iuui}mDWV	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
14		q! ˘[ N˘ P˘	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
15		SAN b ‡ P˘	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
16		e k Ø 薩P˘	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
17		0Ø0 0CE0 0n0`0`0f10Ø	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
18		Qm ´0 0`0 0«0 0Ø	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«
19		SAQm o"0hV Y§	†E	1 0 1 5 }	_S ( 5	0`0 0`0`0n0¿0 0«